

キャンパス・コラム

ケータイする？ or ケーザイする？

昨年9月に東京都が行った消費者調査によれば、携帯電話の使用料が毎月5千円を超えるのは、30代以上の3～4割程度に対し、10代では60%、20代では73%に達し、世代による差がはっきり数字に表れた。中には月に何万円も使う若者も多いのだろう。彼らの半数は支払いに負担を感じており、そのために10代の30%、20代の32%がアルバイトをしているそうだ。

最近では教室内で着メロを鳴らす不届き者は減っているし、車内での声高な通話で響きを買っているのもむしろ中・高年だ。若者たちとは見れば、うつむき加減でケータイを握りしめ、親指も器用にメールの交換にいそむクワイ姿が何人もいる。インターネットやゲームも含まれるのだろうが、これが彼らの使用料を膨らませているらしい。

いつも誰かと繋がっていたいのは、コドクで

サミシイからだろうが、人間だれしも死ぬまで孤独なのだ。逃れねばならない恐ろしいものでは決してない。誰もが心の奥に孤独と暗闇を持ち、これこそ生命力の本源とも言える。青春時代は、この孤独を見つめ、深め、育み、豊かにする大事な時期だ。それを怠れば人は成熟できない。「幽霊を捕らえてみれば枯れ尾花」と俗に言うが、自分の孤独なのだから怖がらずに対決するしかない。これに耐える力は備わっているはずだ。

時に4月、キャンパスはフレッシュマンで賑わっている。最近では下宿に電話を引かず、携帯電話一本ですませるのが一般的になった。休講掲示など大学からの通知がメールで送られるようになる日も遠くあるまい。この便利さは大いに享受しよう。だが、クワイムダ遣いはいい加減にして、そんなヒマがあったら本の一冊も読んでみよう。そして目と目を見つめ合って、孤独を語り合おう。大学生なんだから。

広報委員 田中 裕 (商学部教授)

編集後記

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんが手にした広報誌『Hakumon ちゅうおう』4月号に、「人間ドキュメント・あの日の時」という読み物があります。ここに登場していただいた白鷹幸伯氏が、人生経験を通して話された若者評を紹介します▼「現代は物で栄えて、心で滅んでしまった。」という言葉の意義はすっかり廃れてしまった……でもね、いまの若い人たちが可哀相なのは将来が非常に暗いような気がするんだ」▼確かに白鷹氏がいわれるまでもなく、いま目的を失った若者が多いといわれています。何のための勉強か、何のための就職か、その目的づくりは、これからの4年間にかかっています。企業もしきりに「自己主張・目的意識」を持つ人材を求めています▼中央大学は皆さんの充実した大学生活を願って一杯の応援をしていきます。4年間はあつという間です。「ゆつくり、あせて」いきましょ。 (広報課)

Hakumon
ちゅうおう

2001・4月号(第165号)

2001年(平成13年)4月1日発行

発行 中央大学広報委員会

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

〈編集担当〉 広報課 ☎0426-74-2146

印刷 泰成印刷株式会社

〒130-0026 東京都墨田区両国3-1-12
電話 03-3631-8141